

水源の里だより

第1期みらいづくり隊それぞれの未来



第6回水源の里まいばら市民フォーラム
「みらいづくり隊活動報告会」を
3月10日（日）、山東幼稚園かもんぼーで開催しました。

●2年間の活動を終えて

今回の活動報告会では、平成23年4月から地域活性化の原動力となり、地域の担い手の一人となることを目指し、活動してきた第1期隊員から、2年間の体験や感想などが報告されました。

そして、みらいづくり隊を受け入れ、ともに活動を行ってきた東草野まちづくり懇話会と姉川せせらぎ懇話会の代表者も交えてパネルディスカッションも行われました。

ここでは、2年間の隊員活動の実態について、隊員の立場と地元の実場との双方の意見で語られ、「この取り組みは良いことばかりではなく様々な問題や課題もあった」、「今度は地元の頑張りが問われることになる」など意見が交わされました。

●これからが本当のスタート

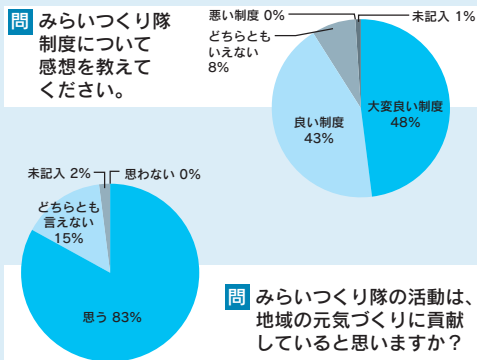
これまでの取り組みを基盤として、引き続き姉川上流の地域に定住する4人にとっては、任期を終えてからが本当のスタートとなります。

田仲さん

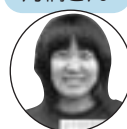


「4月から一住民として、地域の支援になることを地道にやっていくと思います」

みらいづくり隊活動報告会
参加者アンケートの結果（抜粋）



舟橋さん



「この2年間で出会えた方々の御縁を大切に、今後につなげていきたいと思っています」

早川さん



「僕自身が自立して、自分の足で立ちながら、地域を考え、自分の問題として取り組んでいきたいと思っています」

松崎さん



「地域の皆さんが望む地域の姿実現に向けて共に頑張っていきたいと思っています」

この2年間、地域のみなさんとの間に人と人とのつながりを築きながら、一人の住民として地域に溶け込もうと努力してきた4人。報告会の中で語られたこれらの言葉が、それぞれの道を歩き出したことを物語っているのではないでしょうか。



第2期みらいづくり隊 かとうたつま 加藤 竜真さん(23)



●諦めるのはもったいない

加藤さんがまず行ったのは、地域の方から農地を借り受け、自らが鳥獣対策を実践することでした。

当初は、設置した柵の設計ミスなどにより被害を防ぐことができなかったとのこと。

しかし、鳥獣対策は一度失敗しても、その原因を調べ、改善を繰り返すことで、効果的な対策になると語る加藤さん。

「サルに入られてしまった時は、周囲の方々から、やっぱり効果がないと言われてしまいました。それでも諦めずに柵を改良してサルを防ぐことができたので、少しずつ信頼してもらえるようになってきました」と諦めなかったことが、鳥獣対策の成果とともに、地域のみなさんから信頼を得ることにもつながっているようです。

●地域ぐるみの対策に向けて

加藤さんは、これまでに鳥獣対策の講習会の企画・実施、地元上板並区での鳥獣被害状況マップの作成や鳥獣のエサとなる柿木の低樹高化への協力など、地元のみなさんと一緒に鳥獣対策に取り組んできました。

さらに、加藤さんが鳥獣対策に使っている材料は、ホームセンター等でも入手できるような安価な材料です。

「手に入りやすいものを使うことで、誰にでも鳥獣対策を実践できることを広く伝えていきたい」という加藤さんの言葉からは、意気込みを感じました。



▲加藤さんが作成した鳥獣被害状況マップ

●猟師としてみらいを目指す

加藤さんは、みらいづくり隊員の任期終了後も地域に住み続けるための生業にできるよう、猟師見習いとしての活動も行っています。

将来的には、狩猟動物の食肉加工のほか、捕獲した害獣の角なども加工し、アクセサリーなどへの商品化も検討されているそうです。

●担い手を増やすために

「自分のような若い人たちに鳥獣対策や狩猟への関心を持ってもらい、学んでもらうことができれば、農業の若い担い手も増えるのではないかと考えています」と語る加藤さんは、猟師としての経験を積み、技術を身に付け、若者に狩猟の魅力や技術を伝えるような取り組みを進めていきたいとのこと。

鳥獣被害の改善と、猟師として生業の確立を目指す加藤さんの今後の活動に注目していきたいと思えます。



お問い合わせ

政策調整課

水源の里振興担当 (伊吹庁舎)

☎558-1112

☎58-11630